

地域の力

あさひかわ

第2回

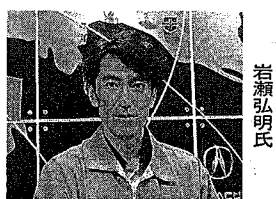
大雪山連邦から流れ込む豊かな水と肥沃な大地に恵まれた旭川市は、稲作を中心とした北海道屈指の食糧基地である一方、機械・金属関連産業をはじめとする製造業の集積地という側面も合わせ持つ。第2回目は、旭川市に基盤を持ち、時代の変化や顧客ニーズなどに応えながら、数十年以上にわたり地域経済を支えてきた3社を取り上げる。

発からメンテナンスまでトータルでサポートできることが同社の強みだ。現在、日本国内はもちろ

ている。1959年に佐々木鉄工所として創業し、当初は旭川の地場産業を支える木材加工機械を製造していた。しかし産業構造の変化に伴い、およそ30年前に野菜の洗浄・選別メーカーに事業転換し

積極的にやっている。海外にまで視野を広げている地元企業はまだ少ないが、「重要なのは外に目を向けること」(同社代表 佐々木通彦氏)と言ひ、代表自ら国内外の顧客の元へ足を運び、ニーズを拾い集めている。

「上原ネームプレート工業(株) 東京都台東区元浅草3-13-14、03-3842-1248」は、創業70年を誇る自動車の内外用部品メーカーだ。



岩瀬弘明氏

「中央精工(株) 旭川市永山2-11-1-28、0166-48-3639」は、1970年の創業以来、金属の精密機械

加工で地歩を固めてきた。要求度の高いシクロ単位のカスタムパーツ製造をはじめ、金属、精密プレス加工、精密電子機器部品、装置の設計・製造など、顧客の要望に応じたオーダーメイド型の事業を展開している。

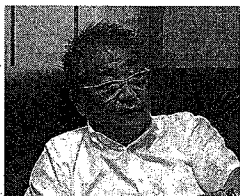
売上比率は自動車関連が半分を占めるが、エレクトロニクス、食品、飲料、一般産業機械など事業領域は広く、今後は医療分野にも注力する。すでに旭川医大と連携した医療機器開発にも取り組んでおり、将来的には事業の柱の一つとして伸ばしていきたいと考えた。

旭川の地域経済を支える3社

技術力武器に成長加速

グローバル市場にも展開

■エフ・イー
(株)エフ・イー(旭川市工業団地3-2、0166-36-4501)は、野菜の洗浄・選別メーカーとして国内で高いシェアを持つ。機械の設計・製造、システム開



佐々木通彦氏

た。形や大きさの異なる様々な種類の野菜を洗浄・選別するための機械開発には、長年の経験による独自のノウハウと、現場のニーズに応えるための確かな技術力が不可欠だ。それに加えて、同社がまご役となり、多数の地元企業と連携を図りながら地域一体となって製品開発する取り組みも

旭川機械金属工業振興会会長という顔も持つ佐々木代表は「企業誘致は地元への雇用拡大といった反面、地元企業の人材不足につながる側面もある。一方、地域経済の活性化に果たす役割も大きく、その地域にどんな技術を持つ企業があり、ど

表面処理の技術力の高さには定評があり、富士重工業をはじめホンダやマツダなど、国内外の自動車メーカーのエンブレムの多くを手がける。

生産し続けている。旭川市に拠点を構えて今年で25年目を迎え、中国との2拠点体制でグローバルに対応している。「旭川は災害が少なく、BCPの観点からも立地環境に優れている(旭川事業所長 岩瀬弘明氏)ことに加え、空港からの

アクセスも良く、飛行機の欠航もほとんどないことから「納品のトラブルは全くない」という。研究開発もすべて旭川で行っており、優秀な人材を確保しながら「旭川品質」を誇り続けている。他社には真似できない難しい処理や、新しい技術にも挑戦し、今後旭川を拠点に世界に向けて発信していく。

同社は佐々木代表が一代で立ち上げ、現在は従業員180人。最先端の加工機と優秀な技術者を数多く備え、旭川地域の経済を支えている。内陸に位置する旭川の立地環境から、物流コストの観点から「原料が少なく」「小さくて精密なもの」で競争力を高めてきた。設計から製造まで一貫した社内ラインを構築しており、高精度な製品を迅速に製作できることも強みの一つだ。

自然災害が少なく、人材確保の点からも持続可能な企業活動を続けられる立地環境が旭川地域の魅力である。一方、誘致企業と地元企業との共生もまた重要な課題である。(産業タイムズ社 小峯 未来)



佐々木正氏

人、中国・韓国・台湾で事業を展開するほか、ベトナムをはじめとするASEAN諸国にも注力し

た。

た。

た。

た。

た。

た。

た。